

第 I 部 「南京を思い起こす 2009」記録

1 プログラム

国際セミナー「南京を思い起こす 2009」

～戦争によるトラウマの世代間連鎖と和解修復の可能性をさぐる～

2009年10月7日～10月10日

中国南京市、南京師範大学にて

このセミナーは、異なった戦争体験と教育を受けた日本人、中国人が、日中戦争と南京の悲劇について共に学び、心を開き、お互いの声を深く聞く事を目的とします。参加者は、記念館見学、生存者の証言などを通して日中戦争と南京の悲劇について共に学び、感じる事を分かち合い、過去の戦争が現在の私達の社会や自己のアイデンティティーにどのような影響を与えているか、また、私達はそのような過去を越えて、平和な未来のために何ができるのか、ドラマセラピーや表現アーツの手法も使いながら、共に、感じ、考えていきます。

10月6日	日本からの参加者到着、受付、説明会
10月7日	10:00 南京師範大学集合 研究報告（今回の企画の意義についてそれぞれの立場から）張連紅、村本邦子、アルマンド・ボルカス 2007年度セミナー参加者からの報告 2009年度セミナー参加者の紹介 12:00 昼食 1:00 南京師範大学出発 1:30 南京記念館見学 3:30 ディスカッショングループ 5:00 解散
10月8日	9:00 南京師範大学集合 HWHプログラム① 1:00 昼食 2:15 HWHプログラム② 5:00 解散

10月9日	9：00 南京師範大学集合 HWH プログラム③ 生存者証言 1：00 昼食 2：15 HWH プログラム④ 5：00 解散
10月10日	9：00 南京師範大学集合 9：30 燕子磯記念碑、慰霊祭 12：00 移動／昼食 2：00 体験の統合とプログラム評価 5：30 晚餐 7：00 終了、解散

* ①②③④ HWH プログラム—Healing the Wounds of History は、アルマンド・ボルカス氏自らがホロコースト生存者の 2 世であることから、葛藤を抱える民族間の和解の為に開発した平和教育プログラムです。HWH プログラム①②③④はクローズドで行いません。

主催：立命館大学応用人間科学研究科、南京師範大学教育科学学院、南京師範大学南京大虐殺研究センター、カリフォルニア統合学研究大学院東西心理学科
 研究代表者：立命館大学 村本邦子（臨床心理学）、南京師範大学 張連紅（歴史学）、傅宏（心理学）、CIIS 大学院 アルマンド・ボルカス（心理学、ドラマセラピー）、笠井綾（心理学、表現アートセラピー）